

云ふにいへぬ氣分がする、犬はと思つて見たが、其邊には居らない。

と一々金を忘れた場所へ着いた。けれども其時の彼の感情は果してどんなであつたらう、彼の心腸は此場の光景を一見した許りで殆んど寸断した。不憫な犬は、もはや自分の敬愛せる併も殘酷極まる主人に伴ふことが出来ない所から、あはれや其最期の一瞬間を以ても尙自分の職務に服することを決心した、全身血まみれになつた儘で、金袋の所まで這ひ戻つて、來て、今や死の間際の苦しみの際して、金袋の番をして居つたのである。

夫でも主人の顔を見るとすぐ尙尾を搖かして、喜の心を見させて居る。けれども、もはや何にも出來ない、立ち上らうとしたが、叶はない辛うじて舌を出して、殘酷な所業の赦免を乞ふ積りで、悲

しみに充ちてさし出した主人の手を甜りながら、温な顔をして主人を眺めたが、やがて眼を閉ぢて陥いつて仕舞たといふ事である。

●前號考へものゝ解

- (一) 私は夜戻るのが恐いから(虫の名二) 蛭、蛙
- (二) 人力車夫とかけて、算盤と解く、心は掛けたり引いたり
- (三) めくらの障子張とかけて、氷と解く、心は、寒で張る
- (四) めくらの芝居見物とかけて、九月の花見と解く、心はさく許り(菊許り)

愛讀諸姉の一人から左の懸賞考へものが出ました、お考へ付きになつたら、遣つて御覽なさい。